

# 年賀状で自分の足跡がわかります

まいど!

みなさん元気になってまっか?

二〇一三年の一月号から始まった、この連載は、今月号で一回目の正月を迎えることになりました。いやあ、月日の経つのは早いものですねえ。

去年も紹介しましたが、僕は毎年一月から、年賀状を延々と二二〇〇枚書いてます。そして今年は二つのパターンがあります。

カットしてもらおうとわかりますけど。

「まいど 人生常に笑顔」というのと、「まいど 心機一転」というものです。

どちらも、コロナ禍で憂鬱になってる、みなさんへのメッセージです。「笑顔」の方が「心機一転」より多いです。

そやから「心機一転」が送られてきた方。あなたは、当たりです。

その年賀状を郵便局に持っていくと、すばらしい景品に換えてくれます……というのは初夢やねえ(笑い)。すみません。てんご(冗談)いいまして。

そやけど、一枚一枚、全部手書きで、一切印刷してませんから、それなりの努力をくみ取ってください。みなさんの新しい年が

ようになるように、心を込めて書いてますんで。

この「原子力文化」を読んでる方も、ええ年になるよう、祈願いたします。

スマホの料金が下がり、年賀をメールで済ます人も増えてるんじゃないかと思えます。それはそれでええでしょうが、年賀状も捨てたもんやないと思えます。一枚六三円で、一年のご無沙汰をお詫びできる年賀状は、今でも優れたツールやと思いますけど、どないでしょう。

**前の首相の菅さんは  
短い間にようがんばっていたきました**

スマホの料金が出たところで、話は、ずれますが(笑い)。いつものことです。気にせんでください。

前の首相の菅さんは大したもんでしたなあ。主なものとしては、スマホの値段下げたり、アメリカの製薬会社と直に交渉して新型コロナウイルスのワクチンを確保。接種率を引き上げたり……短い間に、ようがんばっていたきました。

去年の八月でしたか。菅さんが記者会見で、新型コロナウイルスの対策について「明かりは、はっきりと見え始めている」と言うたとき、マスコミは、一斉に叩きましたなあ。「どこに



●(株)アオキ取締役会長  
**青木 豊彦** (あおき・とよひこ)



大阪府生まれ。1997年(株)アオキは航空機メーカーのボーイング社の認定工場に。また東大阪の技術力を生かし人工衛星「まいど1号」を開発、2009年に打ち上げ成功。その後無人垂直飛行機「AKITU」も開発に成功した。2014年4月、国立和歌山大学客員教授に就任。2016年には大阪市立大学学長特別顧問に就任。2020年、国立滋賀医科大学学外有識者会議委員に就任。(一財)ものづくり医療コンソーシアムの理事も。

見えるんや、国民には見えてない」と。そやけど、どうです。秋から冬にかけてどんどん感染者は減りました。理由はさまざまですが、ワクチン接種のおかげも当然あるでしょう。

マスクは、昔さんを叩いたことに対して知らんぷりしてますなあ。あやまつたらどうやとも思いますけど。

まあ、またオミクロン株言うんですか。変なんでできたけど。僕、この名前を最初聞いたとき、なんでミクロンに尊敬語のオをつけるんやと思つたくらいです(笑い)。

それはともかく第六波にならないよう、政府もがんばってほしいもんです。国民はほつといつても、手を洗つてマスクするやろうからね。

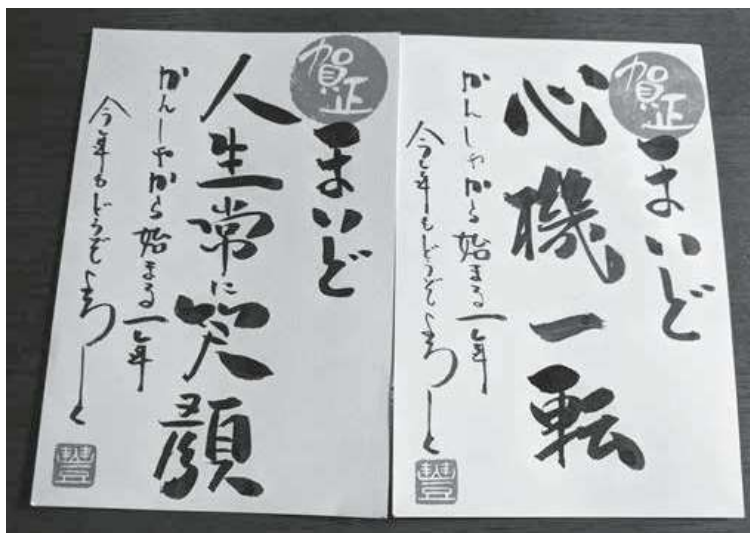
**今年はお客さんの入った会場でグータッチしたいもんです**

それにしても、コロナ禍になって、人とかかわり方は、いろいろ変わりましたなあ。僕も講演は、ほとんどオンラインになりました。スマホのLINEもよう使わせてもろうてます。

それはそれで、勉強になりましたけど。この前、テレビで女優の真矢ミキさんが、言うてました。彼女は、ご存知のように宝塚のご出身です。

真矢さんは、テレビに出ていても、テレビの向こうで、観ている人がどう思っているか気になる、と。舞台出身の人やからこそその発言と思います。リアルな反応が欲しいんやね。

僕も同じです。落語家は、高座に出たとき、まだ演ずる癖を決めてないといひます。お客さんはどんな層が多いか、枕の話



●真正銘手作りの年賀状です。よう見てください。

でどこに受けるか、なんか探つて、何の癖にするか決めるようです。

僕の講演では、内容は主催者からの要望に應えるのは当然ですが、細かい箇所は、その場の雰囲気によって変えています。

でもオンラインでは、この雰

囲気がようわかりません。

今年は、お客さんの入った会場でお話しして、みなさんと握手、あつ！握手は、まだあかんか。グータッチしたいもんです。

最後になります。年賀状にまたもどります(笑い)。年賀状ええもんだつせ。自分のこともようわかります。

特に、サラリーマンは、肩書取つたとき、年賀状を交わす人が何人いるか。これが第二の人生を豊かにするかどうかの道しるべやと思います。

幼馴染がいたり、ついこの前知り合った人がいたり、年賀状で自分の足跡がわかります、といつたら、言い過ぎでしょうか。